

<教育目標>

「生きる力」の基礎をはぐくむ
—こども園・家庭・地域の連続した生活の中で—

<めざす幼児像>

心豊かに いききと遊ぶ子

- 豊かな心をもった子ども
- 健康で体力のある子ども
- 基本的生活習慣が身についている子ども

- 年齢や発達段階に応じた目標をもち、一人一人のよさや可能性を引き出していく。
- 幼児が積極的、主体的にかかわり豊かな生活体験ができるようにする。
- 園生活の中で豊かな心情や自分からかかわろうとする意欲、日々の生活に必要な態度を育てる。

I. 努力目標

1. 温かく活気に満ちた魅力ある園づくり

- (1) あいさつの習慣化を図り温かく活気のある園づくりに努める。
- (2) 園全体に季節が感じられ、心やすらぐ環境となるよう美化と緑化に努める。
- (3) 園が安全で安心な場になるよう防犯防災体制の整備に努め、毎月の施設や遊具の安全点検を実施する。

2. 豊かな心を育む教育の充実

- (1) 遊びや生活の中でのルールの大切さに気付き、自分で善悪の判断ができるようにする。
- (2) 「していいこと」と「してはいけないこと」「けじめをつけること」など規範意識や自制心など幼児が自分で気付いていけるように場を捉えて指導する。
- (3) 一人一人が自分の力を十分に発揮し、伝え合い認め合い刺激し合いながら共に育つ仲間づくりに努める。
- (4) 一人一人のよさや可能性を見出し、幼児自身が「大切にされている」「自分は存在価値がある」など感じられるよう自己肯定感を育む。
- (5) 園での様々な生活体験や自然体験で感じたことを豊かに表現しようとする意欲や態度を育てる。
- (6) 友だちや異年齢児、シニアクラブや地域の人々、小中学生など様々な人とのつながりを深め、思いやりの気持ちや信頼感を育てる。
- (7) 日本の伝統や文化を大切にすると共に、英語活動（英語で遊ぼう）で外国人講師とのかかわりを楽しんだり、英語に触れたりする場を大切にする。

3. 発達に即した豊かな人権感覚の育成

- (1) 幼児との信頼関係を築く中で、教師の人権感覚や意識が幼児に及ぼす影響が大きいことを意識し、温かいまなざしや人権への配慮が行き届いた環境で包まれるよう努める。
- (2) 幼児がお互いの個性を認め合い、自己肯定感をもち、それぞれの良さを生き生きと表現できる仲間づくりをする。
- (3) 植物の栽培や生き物の世話など様々な自然体験を通して命の大切さを感じられるようにする。

4. 全教職員の共通理解による特別支援教育の推進

- (1) 支援を必要とする幼児の実態や発達段階、特性などを全職員が把握し課題にあった適切な指導や支援をしていく。
- (2) 関係機関との連携や研修の機会をもち、幼児理解と指導技術の向上に努める。

5. 基本的生活習慣の確立と健康な生活

- (1) 発達に応じた生活に必要な基本的生活習慣や態度の確立に努める。
- (2) 幼児期が睡眠・食事・遊びなど、生活習慣づくりの大切な時期であることを家庭に啓発していく。
- (3) 挨拶、食事のマナー、箸の持ち方、姿勢などを生活に必要な習慣や態度を家庭と連携をとりながら身に付くようにしていく。
- (4) いろいろな野菜を育て、収穫する喜びや友だちと一緒に調理したり食べたりする楽しさなどが感じられるようにする。
- (5) 戸外で思い切り体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲を育てる。

6. 家庭・地域に開かれた園づくり

- (1) こども園での幼児の様子や育ちを伝えたり、参観日を設けたりして幼児の成長と一緒に喜び合う。
- (2) いろいろな情報を積極的に提供する場をつくり、子育てのヒントや楽しさが感じられるように支援していく。
- (3) 幼児期の大切さや家庭教育の重要性などを理解し、教師と共に親として育つ機会を大切にする。
- (4) 積極的に園外に出かけ、地域のいろいろな人たちとのつながりを深め、開かれた園づくりを進める。
- (5) 具体的な園の教育目標や取り組みなどを家庭や地域に知らせ、評価の推進をすると共に評価結果を公表し、園運営の改善に努める。

7. 互いが高まり合う職場の人間関係と豊かな人間性あふれる魅力ある教師

- (1) 幼児教育に対する喜びや誇りをもち、生き生きとした生活をする。
- (2) 識見を広め、豊かな感性と社会性を磨く。

- (3) 互いの努力を認め合い、励まし合い、高まり合うことのできる温かい職場の人間関係をつくる。
- (4) 園内研修の充実を図り、一人一人の幼児の育ちを明確にして、更なる成長への糧としていく。

8. こども園教育と小学校教育との育ちの一貫性を見極めた連携

- (1) こども園教育及び小学校教育の特質や教育内容について理解を深める。
- (2) 育ちの一貫性を見極め教育・保育に生かしていく。
- (3) 日常生活の中で、教職員及び幼児児童が積極的に交流する機会を設ける。

II. 今年度の研究について

<研究テーマ>

—充実した遊びの中で主体性を育む—

今年度は、遊びや生活の中で、幼児一人一人に寄り添い、安心して自己を発揮し、思わずやりたくなるような、また、心動かされる体験ができるように環境を設定していく。また、様々な人との関わりを通して、互いに刺激を受け合ったり、相手を思いやる気持ちを培ったりできるように教師の援助を考え、全教職員が一丸となって教育・保育活動を進めていく。また、西こども園の環境を最大限に生かしながら、こども園と家庭、地域の連続した生活の中で、信頼関係を基盤に子ども達と教師の笑顔が輝くこども園を目指していく。

<研究に向けての取組>

- (1) 一人一人の幼児の内面を読み取り、幼児の心の動きに寄り添いながら、自己発揮できるように丁寧に関わっていく。
- (2) 身近な環境に興味・関心をもって自ら関わり、遊びを継続し発展させながら、心動かして遊べるように教師の援助や環境構成に努める。
- (3) 生活の中で異年齢児（なかよし家族）との関わりを通して、互いに刺激を受け合ったり、共に学び合ったりできるような豊かな環境を整える。
- (4) 幼児の遊びが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にどうつながっていくかを意識し、見通しをもって学びに向かえるような環境を工夫し、小学校教育への円滑な接続を図る。
- (5) シニアクラブの方々をはじめ地域の皆様、小中学生など様々な人と触れ合う中で心豊かな心を育てていく。
- (6) 様々な研修を通して、教師としての感性や専門性を磨き、保護者や地域とつながりながら保育の充実に努める。